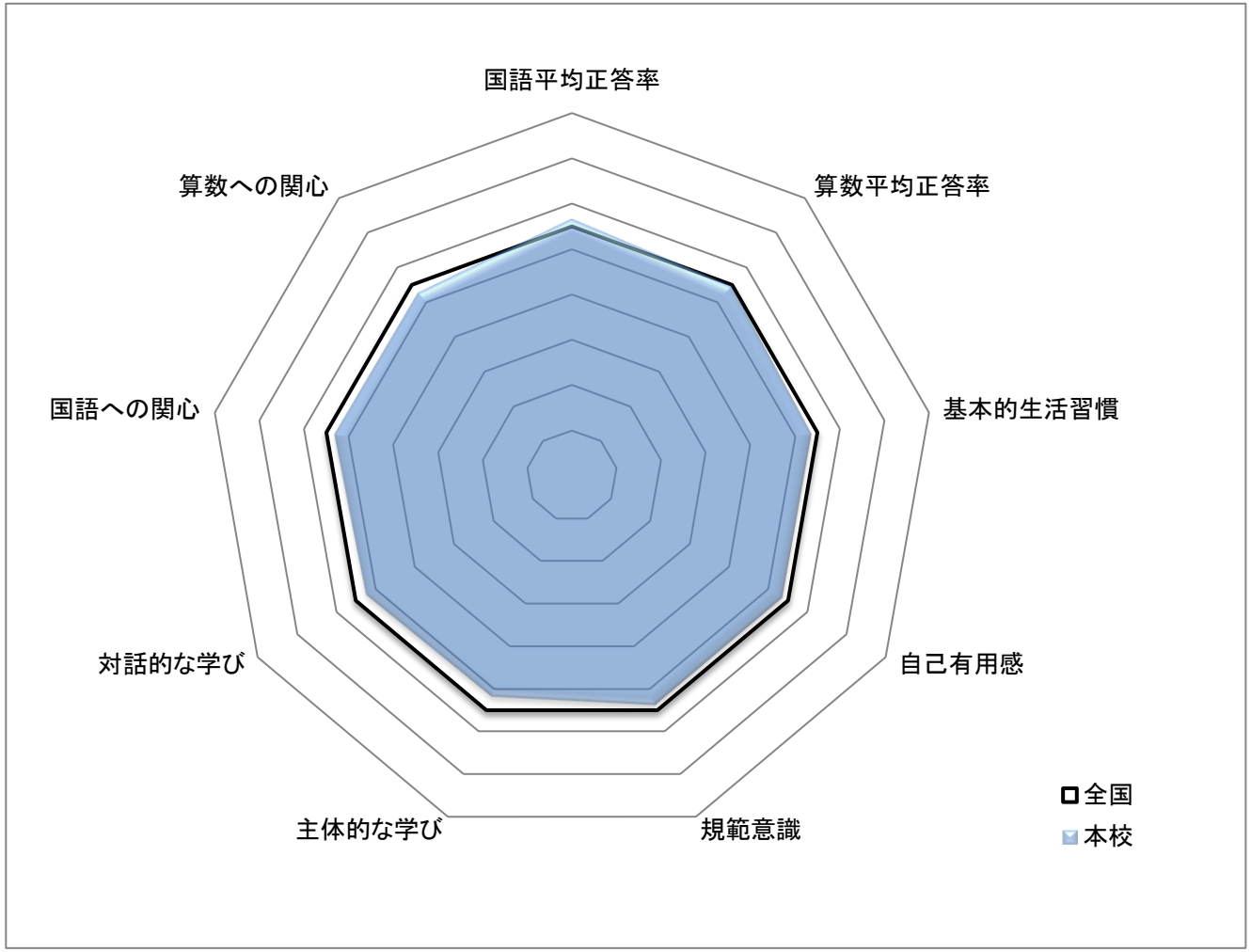
令和６年度 全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（小学校）

江戸川区立東葛西小学校

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

・国語平均正答率は、全国を上回っている。
・算数平均正答率は、全国を下回っている。
・国語、算数共に、将来に役立つ教科であり、大切な勉強であることを理解できているが、授業への関心、学習内容の理解度が低い傾向が見られる。また、どちらの教科も苦手意識をもっている児童が約４割程度見られる。
・基本的生活習慣は、全国と同じである。
・自己肯定感は、全国平均より低い傾向が見られる。

《授業改善のポイント》

・平均正答率を上げるためには、基礎的な学力を身に付ける必要がある。そのため、授業の開始５分間で漢字小テストや百マス計算などを行い、基礎学力の定着を目指す。
・苦手意識をもっている児童への授業の関心度を高めるために、「分かった」「できた」という経験を学習の中で増やしていく。そのために、発問の工夫、単元計画の見直し、教材・教具の工夫、机間指導の徹底を行う。また、授業内で内容の理解が難しい児童には、休み時間や放課後補習等を用いて、補習を行う。以上の改善を行うことで、児童の平均正答率を上げていく。

《チャートの特徴》

・全国平均とあまり大差がないといえる。上回っているのは、国語の平均正答率のみである。それ以外は、僅かな差ではあるが、全て下回っている。特に、対話的な学び・主体的な学びに差が見られる。また、国語や算数への関心が低く、理由として将来的に役に立つ大切な教科だという理解はあるが、苦手意識をもっている児童がいること、内容を理解することが難しい児童がいることが分かる。

《家庭・地域への働きかけ》

・家庭には、個人面談や電話等で、児童の苦手分野を共有し、宿題等の支援をお願いする。また、地域では、算数の放課後補習等を活用し、外部講師による算数指導で、学力の向上を図っていく。